

時間	段階	主な学習内容	ねらい
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れや授業での約束やマナーの確認 ・ソフトボールの歴史や特性 ・振り返りカードの記入方法 ・グループ編成 ○ボール遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の意義や目的、学習方法を理解する。 ・ルールやマナーを守ることで楽しさや安全性、公平性が確保されることを理解することができる。
2	学習Ⅰ	○スロー練習（パオーンでスロー） ○スローゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・投げる腕を後方に引きながら足を踏み出して大きな動作でボールを投げるができる。 ・ボールの正面に回り込んで捕球することができる。 ・タイミングを合わせてボールを打ち返すことができる。 ・課題の解決に向けて、自らの考えを述べるなど積極的に話し合いに参加している。 ・安全上の留意点を他の練習場面に当てはめることができる。
3		○キャッチ練習（バランスボール・紙コップ） ○キャッチゲーム	
4		○バッティング練習 ○バッティングゲーム	
5	学習Ⅱ	○捕球・送球練習 ○捕ったらGO（バント・バッティング）	<ul style="list-style-type: none"> ・正面へ入る動きとバックアップの感覚をつかむ。 ・守備位置を確認してねらった方向へ打つことができる。 ・次の塁を狙って全力で塁を駆けぬける感覚を身につける。 ・自己やチームの課題を見つけることができる。
6		○バッティング練習 ○打ったら回ってGO	
7		○フェアゾーンゲーム	
8		○フェアゾーンゲーム	
9	学習Ⅲ	リーグ戦（6人対6人）	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで作戦を立ててゲームに生かす。 ・仲間の動きを分析し、的確なアドバイスができる。
10			

城南中ソフトボールの

研究授業についての成果と課題

- ・工夫したゲームの「フェアゾーンゲーム」では、十分に運動量が確保されつつ、作戦を立て、その作戦を実践しようとコミュニケーションをとる声が多く聞こえて良かった。また、このゲームでは、めあてとしていた「基本的なバット操作を身に付ける」よりも、捕球・送球技能を身に付けるために有効ではないかとの意見も出た。しかし、目指すゲームの様相には近づくことのできるゲームであった。
- ・全体的に、1年生の授業らしく、基本練習にも工夫が凝らしており、誰もが好奇心をもって授業に参加でき、かつ基礎的スキルが身に付くような練習が仕組まれていた。分析シートは、自分の動きが一目で分かるものであり、この後に計画されているチームでの連携した守備の授業につながるものであった。

